

「列積乱雲 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

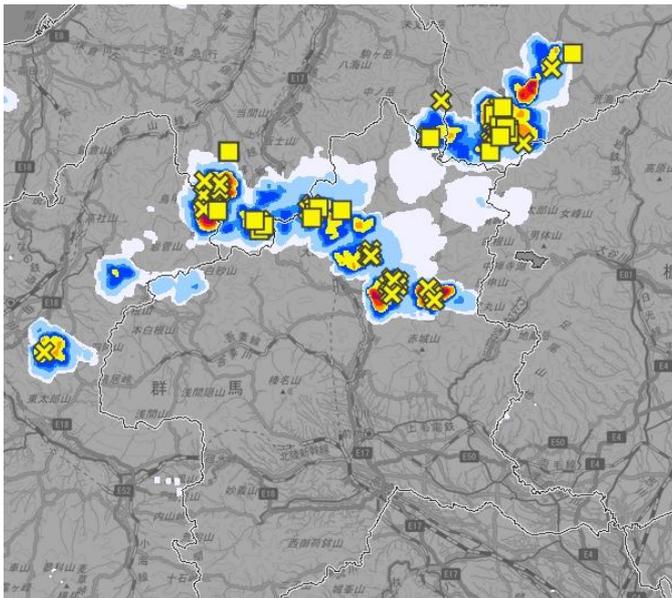
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

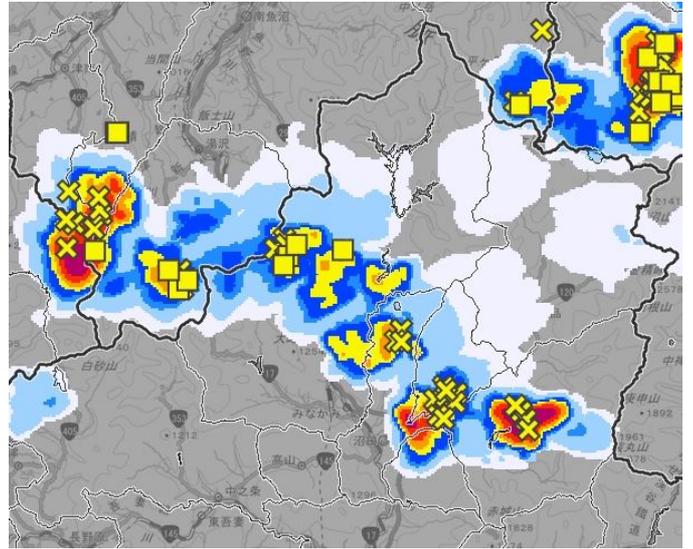
積雲が対流圏上層に向かって発達した雄大積雲は時に「列状」にいくつも並ぶことがある。これを「列雄大積雲」という。そのまま発達を続けると、午後にはすべての雲塊は積乱雲にまで発達し、「列積乱雲」となる。この現象が間断なく同じ場所で起きると、いわゆる「線状降水帯」が発生することもある。



先日の倉賀野駅付近(高崎市郊外)で見た積乱雲は、3~4つの積乱雲が横に並んでいた。高崎市から見ると北の方角だ。



これは同時刻の降雨と雷の状況である。群馬県北西部から栃木県南部にかけて、優勢な積乱雲がいくつも発達しているのがわかる。



私が高崎から見た積乱雲は、恐らく右下の3つの雲塊だろう。雷(×雲放電、■落雷)も多数発生していて、明らかに雷雲(積乱雲)とわかる。



その後私は高速道路で移動し、嵐山パーキングでもう一度その雲を観察してみた。積乱雲は更に発達し、大型になっていた。



一番左側(西側)の積乱雲は、完全に圏界面に沿って水平に発達し、一部は巻雲(擬巻雲)になっているのがわかる。次回は、積雲の発生から、列積乱雲が形成されるまでの全過程を、一地点からじっくりと観察してみたいと思った。